

「もう困らない、正しい情報提供と相談の対応」 ～フォローアップ編 事例検討を通して～

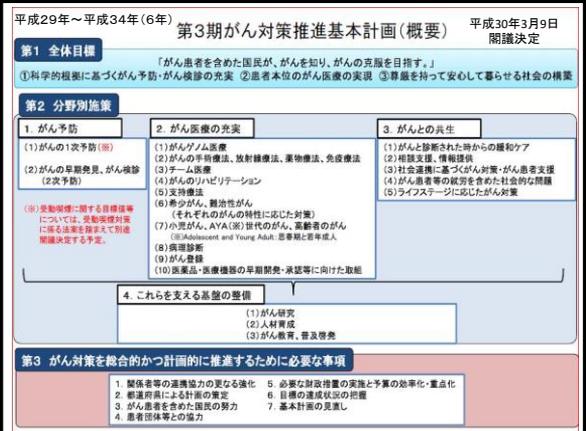
2018年11月17日(土)
地方独立行政法人大牟田市立病院
がん専門相談員 MSW 北嶋晴彦

学習目標

1. ACP(アドバンスケアプランニング)について正確な知識を得る
2. 相談支援のプロセスを意識しつつ、相談者が抱える不安に対する正確なアセスメントができる
3. 疾患が患者・家族に与える影響を理解し、相談者と一緒に問題・課題を整理して、より望ましい解決へ向けた正確な情報提供を行う支援方法を学ぶ
4. 本研修で元気をもらって明日からの業務に取り組むことができる

タイムスケジュール

- 10:50～(20分) オリエンテーション 講義
- 11:10～(25分) ワークⅠ 事実の抽出
- 11:35～(25分) ワークⅡ 問題・課題の整理
- 12:00～(60分) 昼休み
- 13:00～(90分) ワークⅢ 支援計画と目標設定/シナリオ作成
- 14:30～(10分) 休憩
- 14:40～(50分) 全体共有
- 15:30～(10分) まとめ
- 15:40 終了



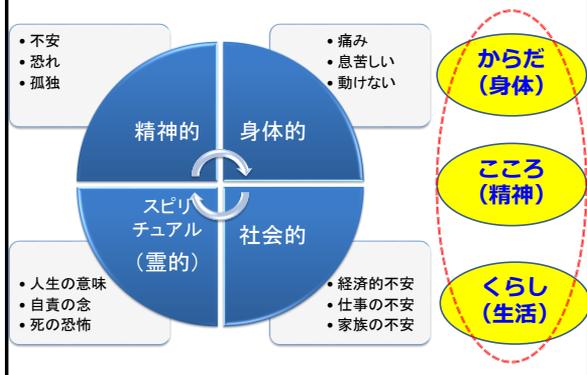
がん相談支援センターの業務 1/2

- ア) がんの病態や標準的治療法等、がんの治療に関する一般的な情報の提供
- イ) がんの予防やがん検診等に関する一般的な情報の提供
- ウ) 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能及び、連携する地域の医療機関に関する情報の提供
- エ) セカンドオピニオンの提示が可能な医師や医療機関の紹介
- オ) がん患者の療養生活に関する相談
- カ) **就労に関する相談**
- キ) 地域の医療機関におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- ク) アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する相談
- ケ) HTLV-1関連疾患であるATLに関する相談

がん相談支援センターの業務 2/2

- コ) 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援
- サ) 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取り組み
- シ) その他相談支援に関する事
- ス) **がんゲノム医療に関する相談**
- セ) **希少がんに関する相談**
- ソ) **AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援に関する相談**
- タ) がん治療に伴う**生殖機能の影響や、生殖機能の温存に関する相談**
- チ) その他自施設では対応が困難である相談支援に関する事

痛みの生活分類(トータルペイン)



相談支援のプロセスの要素

心理的サポート (傾聴/受容)

クライアントの訴えをじっくりと聴く
不安や動揺を受けとめ、その軽減・解消を図る

アセスメント (情報収集/問題の整理/多面的・総合的評価)

主訴(表面的なニーズ)の裏に隠れた課題・問題、潜在的なニーズを意識する

課題・問題の明確化と共有

課題・問題をクライアントと共有し、次の行動に結びつく決定を促進する

情報提供

正確な情報を提供し理解の促進を図る

今後の方向性の検討と共有

今後の動きをクライアントと検討、整理し共有する
他の専門職、他機関等への依頼・連携等をおこなう

引用: 国立がん研究センターがん対策情報センター相談員基礎研修会(3)資料より

事例

氏名 : 山本さん(仮名)
年齢 : 73歳
性別 : 女性
病名 : 大腸がん、多発肝転移
治療の状況: 点滴治療→内服抗癌剤(TS-1)治療
家族構成: 70代の夫(元来健康)と2人暮らし
長男・次男ともに遠方に在住
通院状況: 夫は通院送迎のみで受診は本人のみ

事例

【相談のきっかけ】

1年半前に腹部の違和感を感じ、近医を受診したところ大腸がんステージⅣの指摘を受け当院に紹介。同時に多発肝転移も見つかり、化学療法を開始した。治療開始後は心配していた副作用もなく過ごしていたが、内服抗がん剤治療へ変更になってから吐き気が強く食事量も低下した。大好きな家庭菜園や花作りを行うことが億劫な気持ちでいるが、夫や息子たちからは「できるだけ治療を頑張ってほしい」と励ましを受けていた。通院中の医療機関の案内で見かけた医療相談を紹介したポスターを見かけて患者本人が相談に訪れた。

事例

【初回面談】

相談員は、山本さんが担当医から現在の抗がん剤が効かなくなれば緩和ケア治療になると聞き落胆している気持ちや、倦怠感のため家事や趣味ができず、憂鬱な気持ちを傾聴した。また山本さんは「家族の期待には応えたいが、今の治療を続けるほど体力に自信がない」と話し、自分の気持ちを打ち明けられないもどかしさを感じているようであった。さらに抗がん剤治療ではなく、知り合いから聞いた副作用の少ない免疫療法を試してみたいという意向を話された。

グループワーク I

アセスメント①:

相談者の事実(情報)についてあげてみましょう

客観的事実は?

相談者の主訴は?

ニーズは?



時間(目安): 20分

全体共有 : 5分

グループワークⅡ

アセスメント②: 問題・課題を考えてみましょう

予想される問題・課題は?
潜在的ニーズは?
からだ・こころ・くらしの視点で考えたら?



時間(目安): 20分
全体共有 : 5分

グループワークⅢ

①優先課題と目標設定

グループワークⅡで挙げた問題・課題の中から、重点的に取り組む課題を1つ選び、その優先課題に対する目標設定を決めましょう。選んだ理由も明らかにしましょう。(目安: 30分)

②シナリオ作成

課題解決に向けた5分間の対話(相談支援の場面)のシナリオを作ってみましょう。

(目安: 60分)



発表・全体共有

発表形式: 1グループ10分

支援内容説明: 2分
ロールプレイ : 5分
質疑応答 : 3分



各種がんの病態や治療・相談支援に関する情報

がん情報サービス <http://ganjoho.jp/public/index.html>
日本対がん協会 <http://www.jcancer.jp/>
Minds(ガイドライン) <http://minds.jcqh.or.jp/>
がんinfo <https://www.imic.or.jp/library/cancer/>
がん情報サイト <http://cancerinfo.tri-kobe.org/index.html>
がんナビ <http://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/cancernavi/>
キャンサーネットジャパン <http://www.cancernet.jp/>



がん情報サービス



日本対がん協会



Minds

<がん相談支援に必要なスキル>

- ① コミュニケーションスキル(言語・非言語・音声の活用)
- ② 対象者理解(問題・課題の共有。相談者に寄り添う=共感)
- ③ 専門家との連携(自身の特徴や限界を知る)



相談支援のプロセスを意識して、患者さんやご家族が希望する療養生活に向けた意思決定支援を行う。

病気を良くする(治す)ことは出来ないかもしれないが、生活を良くする(QOL向上)ことは出来る。

がん相談支援に必要なポイント(まとめ)

疾患の特徴を正確に理解して支援を行う(病期・副作用)

コミュニケーションスキルを意識して対象者理解をする

潜在的ニーズを把握するアセスメントを意識化する(からだ・こころ・くらし・トータルペイン)

相談支援のプロセスを意識して意思決定支援を行う

その人に合った正確な情報を伝える(質・出典・方法)

必要に応じて専門部署へつなげる(院内・院外・多職種)

サポートの継続性を保証する